

# 昭和二十七年度

## 復活後一年を経て

成毛雅臣

二十七年度の柔道部の活躍は日吉<sup>まじ</sup>、谷道場に於ける春の合宿より始まり、清水正一師範の指導により立技寝技の基礎研究の反復練習を行い併せて「投の形」・「極の形」の指導を受け、今後活潑となつてゆく学生柔道の飛躍に備えた。東京学生柔道連盟もようやく組織化され塾よりも二名（成毛・太田）の委員が出て高広会長（早大出）早川副会長（東大出）の先輩をはじめ各大学より選出された委員と議論を重ねながら全国大会の予選や東京大会の試合方法を決定した。

七月五日より東京学生柔道連盟加盟のAブロックリーグ戦が三田綱町道場で行われ塾は四勝一分の好成績で六校中二位となつた（勝点の差により中大が一位）。これにより東京学生優勝大会の出場権を得た。七月二十日警視庁体育館で東京学生優勝大会が行われ、本塾は法政大学を破り準決勝で明治大学と対戦、点数的には大差で破れたが全力を尽しての戦いぶりに対し、毎日新聞紙上でその健闘ぶりを賞賛され塾柔道部の存在を強く印象づけた。

本塾高校柔道部は神奈川県予選で失点なしと云う好成績で夏の第一回全国高校柔道大会に臨んだが自信過剰が仇となり調子の出ない予選リーグ一回戦で破れ二回戦には大勝したものの決勝トーナメントの出場権を失う結果となつた。

九月十四日第一回全日本学生柔道優勝大会が行われた。本塾は緒戦の新潟大学に六対〇と圧倒的勝利をおさめながら

ら、次の中央大学戦で僅差で大将戦となり優勢勝で勝利を握ったと思われたが残念ながら引分の判定の為敗退した。この敗戦は早慶学生間で春より早慶柔道対抗戦の話合が進められ出場者数・日時まで決った段階で早稲田先輩の反対により復活寸前で潰れ去つたことと共に苦い思い出として残っている。

十一月に行われた学生東西対抗戦並に選手権大会には塾の実力と地位により選手四名、学生役員四名を大阪に派遣し関西在住の柔友会の諸先輩に暖い歓迎を受けた。

十一月二十四日、講道館創立七〇周年記念全日本年令別柔道選手権大会は蔵前国技館で行われた。年令別に五階級に分れ割をきそつたがA組（二十才未満）で東京代表となつた熊切三段（経済学部二年生）は決勝で北海道代表、原田初段に対し終始好調で大きく体を振る払釣込足で相手を崩し右大外落し（新聞の記録では体落）がきまり、まったく危げなく勝ち優勝杯を手にした。

日頃の稽古熱心と柔道に対する情熱がこの様なチャンスを確実なものにして優勝となつて表れたと思われ部員一同心から喜びを共にした。

十二月六日第一回東京都中学校柔道大会が蔵前中学校講堂で、都下三十五校が参加して行はれ、普通部が優勝の栄冠を獲得した。

この優勝は幾つかの幸運が普通部柔道部の実力を發揮させて生れたと云えよう。

先ず出場のチャンスは芝中の先生より成毛（英）が申込締切数日前に偶然知らされたことから始まった。しかも皮肉なことにこの大会を教えて下さった芝中と事実上の決勝戦としての準決勝戦で対決する事となる。結果は戦績を見

ていただければわかる通り一一の同点となり、代表者戦で檜山君が輪笠初段を破り決勝へ進んだのである。次いでこれまで普通部は中等部との試合しか対校試合を許していなかったため、短時日で出場申込を行う事に非常な困難があつた。当時普通部柔道部長をして下さっていた野口福次先生が、教員会議で大議論の末にやつとその御尽力により出場が許可されたと云う経緯をたどつたのである。

この頃の普通部柔道部は部員数も多く主将の佐々木君を中心によくまとまり、普通部から三田綱町道場まで集団で熱心に稽古に通つていていた。そして師範や先輩・大学生等の指導の下に焼まず稽古にはげんでいたのが、ほとんど試合練習もせずに大会に出場したのに優勝をとげる大きな原因となつたと考えられる。

この大会当日野口福次先生も新婚早々の奥様と国電浅草橋駅で待ち合わせをされていらっしゃつたが、普通部が決勝戦迄勝進んだために奥様を二時間余も駅で待ちぼうけをさせたと云うエピソードを生み出した。ちなみに朝日新聞によれば試合は五時間余にわたつたと記されている。

試合経過は初戦で早川君が脳震盪の為出場不能となる不運にもめげず全選手の頑張りは、しばしば見られた審判の不手際を乗り越えて優勝への路を進んだが、中でも檜山君は立技寝技共に相手を圧倒して芝中との代表戦を含めて五戦全勝と云うすばらしい成績で優勝の立役者となつた。

かくして長時間にわたる戦を勝ち抜き佐々木主将の手に優勝旗が授与され初優勝が成つたのである。

尚同時に行われた紅白試合に於ても五名が個人賞を受け当日はペンのマークをつけた柔道着が大活躍した一日であつた。

マッカーサー司令部の学校柔道禁止の期間も諸先輩や大学生を中心とした種々の努力により塾の柔道部の伝統は途

切ることなく伝えられ、団結して通常の稽古の他に合宿や寒稽古等を続けていた熱意が学生柔道復活間もないこの年徐々に成果となつて現れはじめたものであると考えられる。先輩から幼稚舎生までを含む部員の柔道部を愛する心が一つとなって「和」の精神が上下の関係にも友達の関係にもゆき渡り日頃の稽古は勿論日常の交遊にも暖い楽しい雰囲気が醸し出され部員は皆何となく道場に足がむく様な気分を持つていた。

大学・高校・普通部の部員がこの年一応の成果をあげ活躍したのはこの様な柔道部独特の気風から生じたものであろう。そしてこの気風は又途切れることなく受継がれこの中から塾柔道部を担つて活躍する部員が次々と育つて行つたと信じている。



四段 成毛雅臣、宮崎剛

三段 熊切昭男

二段 稲田敬、友田次亮、太田伸児、鈴木正朋、上

村昌道、乾俊夫、田坂昭

初段 丸山照雄、堀越忠義、河合靖之、遠藤千春、

水藤三郎、蜷川謙一、小川浩二、高松静男、

飯塚国基、長戸英夫、鈴木一男 以上五十名

精勤証受賞者

阿部大助（普二年）、頭山立国（中二年）早川鉄三

（普二年）、稻田詢（普三年）橋本光蔵（普一年）、

水藤三郎（学一年） 以上六名

体育会功劳賞選手章受賞者

功劳賞受賞者 鈴木正朋（他不明）

### 春季合宿（大学）

四月一日より四月十日まで 於 日吉道場

この頃、世界的規模に発展しつつあった柔道は、英、仏、独を始め十八ヶ国による国際柔道連盟の結成を遂げており、国内に於ても学生柔道を中心とする柔道興隆の

氣運が起り、各種の柔道大会が開かれるに至った。塾柔道部も我国学生柔道の急速な発展、強化に対応し又一日も早く戦前の技術水準に達せんものと先輩の尽力と清水師範の指導の下に懸命であった。

二十七年度新学期の稽古は、清水師範、成毛新主将のもと、四月一日より十日間の日吉蝮谷道場に於る合宿練習より開始され、チームワークと寝技の基本を身につけ、大いに成果をあげることが出事した。合宿の日課は朝の体操、午前中の技の研究、午後の乱取等、大学部員全員と高校部員の主力を加え、特に熟で研究の遅れていた寝技の攻撃・防禦を清水師範より組織的に指導を受け今まで実施されていなかった「投の型」「極の型」の指導も行われた。

参加部員は次の通り。

大学四年 成毛雅臣、稻田敬、太田伸児、友田次亮、

丸山照雄、石井清隆、上村昌道

大学三年 福田満、小川浩二、高井邦夫

大学二年 田坂昭、乾俊夫、河合靖之、蜷川謙一、

遠藤千春、堀越忠義

大学一年 田中浩司

高校三年 飯塚国基、長戸英夫、広瀬久也

○合宿日誌から抜萃した或る一日。

四月六日（日） 晴

起床七時、七時半より一時間朝稽古をした。終つて福田さんと河合、飯塚、広瀬の諸君が石炭を運んでいたので朝食は遅くなり十時であつた。稽古に宮崎、高松の両君が来た。朝食後、一同講道館で行われた東京都選手権の試合を見に行った。一時開始であつたので少し早く行き過ぎた。前座の紅白試合に吉川君が出場して一人内股でとり、次に出た田坂君と引分けた。選手権試合では成毛さんが一回戦、水谷さんが二回戦で惜しくも敗れた。羽鳥さんは予想通り石川七段と決勝戦することになつたが、肩をこわしていたので棄権した。

友田さんが熱を出して家へ帰つたままであつたが、他の者は定刻迄に帰つて來た。今日から鈴木（澄）三級が参加した。（乾俊夫記）

五段水谷英男（昭22卒）、五段成毛英臣（昭24卒）の三名が出場した。

#### 第一回戦

○曾根康治(4) 優勢

○羽鳥輝久(6) 優勢

#### 第二回戦

○門屋賢悟(4) 優勢

○石橋毅次郎(4) 優勢

#### 第三回戦

○羽鳥輝久(6) 優勢

○金子泰興(5) 優勢

#### 準決勝戦

○羽鳥輝久(6) 優勢

○石川隆彦(7) 優勢

#### 決勝戦

○羽鳥輝久(6) 優勢

不戦 優勢

#### 進級月次試合

##### 少年組七・八・九級の部

3 2 1 柳沢 石郷岡 青木

大内返 引分

○柳沢 青木 石郷岡

四月二十六日

#### 第三回 東京都柔道選手権大会

四月六日 於 講道館

この大会は来る五月十八日の全日本柔道選手権大会の予選を兼ねて行われた。この日六段羽鳥輝久（昭13卒）、

26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4  
 鈴早阿 小 小 林山平 北高 奥 奥 奥 奥 加 加 尾 大 大 山 萩 萩 柳  
 木川部 野 野 下 柳 井 橋 野 野 野 藤 藤 崎 野 野 川 原 原 沢  
 啓 鉄 大 英 邦 燕 和 陽 正  
 祐 三 助 之 生 児 彦 一 光

片引崩小優引引引引引支釣優大引大足払大外刈引払引  
 羽裂分外返勢分分分分分込勢外刈分外刈払腰刈大外刈分腰分  
 足

○  
 田 鈴早阿 頭 小 林 山 平 北 高 高 清 柿 奥 小 加 尾 小 大 山 上 萩  
 久 保 木 川 部 山 野 下 郷 井 橋 木 水 本 野 林 藤 崎 磯 野 川 原 原  
 俊 啓 鉄 大 立 英 邦 亮 燕 和 忠 陽 正  
 夫 祐 三 助 国 之 生 司 児 彦 昭 一 光

五・六級の部及び乙組

21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 久 伊 長 小 稲 佐 檜 藤 藤 永 大 坪 福 福 坂 村 村 鈴 村  
 木 木 藤 島 野 田 木 山 間 間 間 井 谷 根 田 田 倉 松 松 木 松  
 照 慶 喜 真 一 哲 利 一 紀 民 夫  
 誠 彦 一 也 詢 郎 治 也 照 光 郎

引 優 抱 引 引 引 体 優 内 一 体 引 引 引 体 背 引 引  
 分 勢 落 分 分 分 落 勢 股 本 背 落 分 分 分 落 投 分 分

○  
 白 小 久 伊 長 小 稲 佐 檜 星 反 藤 永 大 坪 山 福 坂 手 手 鈴  
 井 沢 木 藤 島 野 田 木 山 野 田 間 井 谷 根 崎 田 倉 塚 塚 木 (正)  
 直 貞 照 慶 喜 真 一 哲 利 一  
 弥 夫 誠 彦 一 也 詢 郎 治 也 照 光 郎

四級及び甲組リーグ戦											
三級		四級									
5	4	3	2	1	15	14	13	12	11	10	9
羽	田	羽	鈴	田	桜	佐	桜	佐	久	近	金
成	中	成	木	中	井	藤	井	藤	保	田	長
貞	浩	貞	澄	浩	宏	宏	雅	富	禧	宏	富
二	司	二	夫	司	昌	昌	義	男	微	徹	義

○ 広 鈴 山 広 山 金 長 久 近 金 長 佐 久 佐 近 金 櫻 久 長 久 近  
瀬 木 際 瀬 際 成 沼 保 田 成 沼 藤 保 藤 田 成 井 保 田 成 沼 保 田  
久 澄 正 久 正 祺 雅 富 祺 雅 富 祺 宏 雅 富 祺 宏 雅 富  
也 夫 明 也 明 徵 徽 義 男 徵 徽 義 男 徵 昌 義 徵 男

磯 岩 柳 林 ○ 勅 使 河 原 ○ 後 荒 原 奥 手 小 ○ 後 大 ○ 望 寺 中 塚  
沼 佐 川 田 ○ 宮 木 口 田 柴 倉 藤 滝 月 田 島 田 田 羽 山 羽 山  
中 成 際 成 際 浩 貞 正 貞 司 二 明 二 明

審	甲組審查	乙組審查
○塚	○佐	6 5 4 3 2 1
查	佐	山 藤 山 村 村 藤
進級月次試合	藤 藤	崎 間 崎 松 松 間
田		

足 扯	引 分	引 分	横四方	引 分	引 分	大外落	抱落	体落	引分	巴投
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----

織 田	五月十七日	星 野	○寺 使 河 原	勅 井 倉 田	○○小 向 田 宮	後	○○小 岩 佐 藤	升 内 岡 野	森 小 福 原
-----	-------	-----	----------	---------	-----------	---	-----------	---------	---------

無級	7 6 5 4 3 2 1	15 14 13 12 11 10 9 8	7 6 5 4 3 2
佐後	八級	竹斎 柴塚 前竹斎	小島 杉 磯木
阿菊	内菊	内藤 田 本 内	杉 沼 下田
見内	菊地	内藤 田 本 内	(健)
藤宮	部地	内藤 田 本 沼	
部	沢	沼	
地	藤		
茂俊	國武政國		
國	樹之雄		
武	俊夫		
政	雄		

太 内	引 分	引 分	巴 分	引 分	引 分	引 分	引 分	引 分	引 分	優勢
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

○ 渡	○ 佐	後 阿	菊 見 内	杉 中 遠 木 遠	當 鍋 岩 馬 長 丸 佐 向 永
○ 辺	○ 佐	後 阿	菊 見 内	守 藤 下 藤 厚 田 佐 目 川 山 藤 井 島	
藤	宮	宮	藤	(健)	
部	部	地	地		
地	沢	藤	藤		
茂俊	國武政國				
國	樹之雄				
武	俊夫				
政	雄				

乙

丙

2 1	組	8 7 6 5 ○ 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1 ○	組	17 ○ 16 ○ 15 ○ 14 ○ 13 ○ 12 ○ 11 ○ 10 ○ 9 ○ 8 ○			
向	竹	斎 前 杉 杉 小 小 磯 磯		加 加 加 橋 橋 橋 池 岩 渡 渡			
井	内	藤 本 本 野 野 沼 沼		藤 藤 藤 本 本 本 本 上 上 辺 辺			
					壯 寛		
					一 郎	治	

一本	引	優 優 引 送 足 返 引 内		足 体 引 崩 足 引 引 引 出			
背負	分	勢 勢 分 紋 扱 技 分 股		払 落 分 婆 扳 分 分 分 払			

○ 小	向	○ 竹 斎 前 塚 杉 大 小 奥		小 柳 上 加 青 山 橋 池 岩 山			
倉	井	内 藤 田 本 滝 野 田		磯 沢 野 藤 木 川 本 上 上 田			
				忠	壯 寛		
				昭	一 郎	治	

六

1 級	23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3						
阿	川 川 川 寺 岡 岡 加 佐 大 後 坪 坪 坪 坪 山 鳥 坪 柴 小 小						
部	上 上 上 田 島 島 藤 木 谷 宮 根 根 田 田 崎 海 田 田 倉 倉						
大	堅 繕 太 三 利						
助	吉 郎 代 稔						

引 分	横 四 方	崩 婆 妾 勢 優 優	繕 固 分 扱 分 引 足 引 合	利	巴 大 内 返	大 内 返	優 勢 一 本
							背負

早	○ 鈴 頭 奥 川 寺 清 岡 紀 佐 大 後 村 原 浜 坪 手 坪 柴 塚						
川	木 山 野 上 田 水 島 內 木 谷 宮 松						
鉄	咲 立 燕 堅 繕 太 三 良						
三	祐 国 児 吉 太 郎 代 良 介				紀 民 夫	稔	稔

甲

5	4	3	2	1	組	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
○	○	○	○	○	○	伊	伊	稻	稻	橋	佐	星	星	檜	福	鈴	豊	竹	竹	竹	阿
久	閔	佐	管	藤		藤	藤	田	田	本	木	野	野	山	田	木	永	本	本	本	部
保		藤	原	間																	
雅	俊		哲			照		光	真							靖	正				
義	介		也			彥		詢	藏	郎						敬	治	与	毅	勝	

一本背負 崩上四方 優勢 強勢 引分 体落腰

三四

28 27 25 3  
成 宮 福 松 學  
毛 崎 田 本  
雅  
臣 剛 滿 功  
(4) (4) (3) (2)  
返 技

○ 神 山 三 高 警  
田 中 輪 橋 視  
(4) (4) (4) (3) 庁

五月二十七日於 警視庁体育館  
学連メンバーとして出場した本塾選手の成績は次の通

警視庁対東京学生柔道連盟対抗試合

東京学生柔道段別選手権大会

六月八日 於 国技館

春季大会

段外者紅白試合

紅

先鋒○沢

頭寺岡	小加	○○	加山	清渡	飯沢	沢
山田島	磯藤	藤藤	川	水	辺野	
立縉太郎	三忠	和陽	芳紀	芳		
国藏昭		彦一	徹和夫	博		

膝車	横四方	引分	大内返	大外刈	大外刈	袈裟固	引分	合技	引分	大内刈	引分	背負投	背負投
												先鋒	

○○	平奥	○○	奥奥	渡萩	福福	○○	阿阿	松富	伊				
柳柳	野野	野野	水原	沢沢	部部	田士	藤						
邦生	燕英	正光	雄吉	俊之	貫庸	造健							

六月十五日 於 綱町道場

島根	三渡	竹豊	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○
田本	輪辺	松永	永永	田久保	田久保	田久保	早川林						
誠富	豊維	泰											弘通
一夫	治昭	一											二三

引分	大内返	引分	大外返	合技	大外落	内股	支釣足	大内刈	横四方	大内刈	大外刈	体落	体落	体落	体落	背負投	背負投	袈裟固
----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	-----	-----	-----

前前	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○
裕	松	松	松	奥	馬	大	山	小	原	島	島	佐	山	河	池	橋	渡	平
雄	本	本	本	本	目瀬	本田	本野	口田	田田	藤	本	野	上	上	本	辺柳		
	精	弘	英	友	之	輔	彦	瀬	昭			篤	善	哲	範	莊	善明	
	健	一	道									宏	之	雄	夫	一郎	弘治	

○ 野 大鳥 浜 丸 丸 勅 当 德 向 鍋 岩 森 福 林 磯 磯 磯 磻 高 友 大  
 上 上谷 海 野 山 山 原 田 井 田 佐 岡 原 田 沼 沼 沼 沼 柳 田 西  
 幸 昭 充 士 良 教 八 謙 一 新 昭 勝 誠 弘 之 佑  
 男 熙 男 功 美 健 雄 司 弘 剛 郎 二 雄 郎 男 一 郎

大外刈 大引 大外引 大引 大外引 鈎達腰 小内刈 払鈎達足 引 内引 引 簂婆固  
 外返 分

○ 村 峰 永 水 明 竹 竹 竹 武 武 佐 鶯 鶯 鶯 中 斎 華 塚 塚  
 岸 松 岸 岸 井 谷 神 内 内 内 内 田 田 藤 川 川 川 守 藤 房 田 田  
 弘 紀 民 照 充 敏 正 耕 明 勝 晴 友 三 夫 喜  
 夫 夫 夫 穂 策 夫 和 一 夫 善 捷 夫 夫 章

大将

○ 長 近 吉 久 佐 久 久 久 久 藤 佐 鈴 鈴 閔 橫 小 坪 坪 坪 佐 原  
 瀬 沼 田 坂 木 木 保 保 保 保 間 藤 木 木 倉 野 田 田 田 藤  
 久 富 克 照 雅 哲 安 太 正 俊 永 喜 隆 秀  
 也 徹 男 彦 誠 正 義 也 郎 道 介 一 也 稔 三 男

大外刈 大引 優 引 引 引 引 小内外 送襟絞 大外落 引 背負投 引 引 大外刈 小外刈 移 送襟絞 引  
 外返 分 勢 分

大将

○ 小 河 河 頭 腰 長 宗 安 稲 稲 稲 福 橋 佐 檜 友 友 鈴 紀 紀 峰  
 原 内 内 山 山 島 宮 藤 田 田 田 本 木 山 田 田 木 内 内 岸  
 勘 三 郎 統 將 慶 直 龍 靖 光 真 一 昌 正 良  
 郎 清 一 武 一 行 夫 詢 与 藏 郎 治 利 納 介



## 東京学生柔道リーグ戦

七月五日～七月十三日 於 綱町道場

七月五日、東京学生柔道リーグ戦の幕が参加十二校を二分してAブロックは本塾綱町道場に於て、Bブロックは早大道場に於て切って落された。戦後学校柔道の復活第一戦であるだけに、この日を目指して張切つて練習にはげんだ選手の意氣高らかに、対農大戦を次の如き成績で勝ち取ることが出来た。

本塾 6 — 1 農大

先鋒 ○ 荒木 宏 武(2) 大外返 先鋒 安達 幸生

○ 松本 功(2) 大外刈 高木 迪

○ 萩原正夫(2) 崩横四方 森崎 茂

○ 福田 满(3) 崩上四方 山田 昭一

○ 熊切昭男(3) 鈎込腰 三沢 袋司郎

○ 宮崎剛(4) 横四方 岡野 俊二

大将 成毛 雅 臣(4) 大外刈 大将 ○ 渡辺 三郎

七月中日、昨日に引続いて対法大戦に連勝。法大は大

将渡辺貞三四段以下俊英を集め、ダーツホールス的存在で

あつたが、本塾松本、荒木、萩原と勝ち進むに及んで、

専ら引分け戦法に転じ、本塾は更に福田の勝を加えて楽勝した。

本塾 4 — 2 法大

先鋒 ○ 松本 功(2) 大腰 先鋒 永野 寛初

○ 荒木 宏 武(2) 跳腰 柳谷 勝 美樹

○ 萩原正夫(2) 合技 橋本 正寿

○ 福田 满(3) 引分 星野 哲弥(2)

○ 宮崎剛(4) 内股透 目忠 孝(3)

○ 成毛雅 臣(4) 引分 菊地行雄(2)

○ 熊切昭男(3) 引分 大将 渡辺貞三(4)

○ 岡野俊二 引分 星野哲弥(2)

○ 岩野義司郎 引分 目忠孝(3)

○ 岩野義司郎 引分 菊地行雄(2)

○ 岩野義司郎 引分 星野哲弥(2)

○ 岩野義司郎 引分 目忠孝(3)

○ 岩野義司郎 引分 菊地行雄(2)

○ 岩野義司郎 引分 星野哲弥(2)

○ 岩野義司郎 引分 目忠孝(3)

○ 岩野義司郎 引分 菊地行雄(2)

○ 岩野義司郎 引分 星野哲弥(2)

○ 岩野義司郎 引分 目忠孝(3)

七月九日、リーグ戦第三日目は、和村、飯田の両五段を有する教育大学である。破竹の勢で連勝を続けた本塾も、軽々しく対戦出来ない相手と見て策戦を練り、各選手必勝の意気を胸に出席した。本日はウイークディのことであり、中等部・普通部の部員が多数応援に来場、小さい手に汗を握るうちに、本塾竹田、教大吉野の先鋒戦より開始された。試合経過は次の通り。

大将 成毛雅臣(4) 引分 飯田頼男(5)

先鋒、次鋒と惜しくも引分に終り、三鋒萩原も得意の送足払、或は払腰と攻撃を続けたが、守勢一方の教大高

村君を倒し得ず、之も引分かと惜しまれていた折、好機を捕えて放った左送足払、技有近く、判定で一点を先取した。次の熊切は危気なく、大外巻の大業で勝ち、三将

福田は立上り、直ちに送り込みの跳腰で横本君を宙に舞はしたが場外、時間間際に左背負に敗れた。副将和村対

宮崎、大将飯田対成毛は共に力闘の末引分。

七月十二日、対戦相手紅陵大（拓大）は、この日東日本学生相撲大会の優勝戦に塾相撲部に惨敗を喫したのでこの仇を果さんものと、金沢、井上、原田の三名の猛者を以つて戦をいどんで来た。ボロボロの着物を高下駄、太いステッキ等、いささか最初はどぎもを抜かれた格好だったが、結果は御覧の如く、粹でシックな慶應の学生サンの大勝で紅陵を降したのである。

本塾 4 — 2 紅陵大

先鋒 ○ 荒木宏武(2) 優勢先鋒 佐藤彻

松本功(2) 大腰 ○ 金沢彻

萩原正夫(2) 崩裂姿 ○ 井上勲

○ 熊切昭男(3) 小内刈 稲富(2)

○ 福田満(3) 内股 門屋(2)  
崩裂姿 原田(2)

大将成毛雅臣(4) 引分 大将北川(3)

七月十三日、Aブロックの最終日の一位決定戦となつた対中央大戦は悼尾を飾るにふさわしい大熱戦であつた。

先鋒 萩原正夫(2) 引分 先鋒 中村(2)  
成毛雅臣(4) 払腰 渡辺(2)  
松本功(2) 引分 相藤(2)  
福田満(3) 引分 蔵重(3)

熊切昭男(3) 引分 江崎(3)  
○ 川口(4)

大将 ○ 宮崎剛(4) 崩四方 大将島谷(4)  
成毛雅臣(4) 払腰 ○ 川口(4)

先鋒以下三将に至るまで、両軍攻防の秘術をつくしたが技倅伯仲、全て引分に終り、勝敗を大将、副将戦に賭けることになり、満場いよいよ緊張の度を加えるうちには、中大川口四段、本塾成毛四段の熱戦が始まられたが、成毛四段、終始相手を圧倒し乍らタイム寸前、場内すれすれの所で払腰に倒れたが、敗れて悔のない好試合であった。統いて中大島谷四段に対する本塾宮崎四段の対戦である。宮崎最初から大外刈、蟹挟み等と終始攻勢

に出て、島谷君の反撃を許さず、後半、釣込足で倒して得意の寝技に入り、必死に逃れんとするを攻防の末、遂に押込んで貴重な一点をあげ、中大戦を引分けた。然し勝点計算に依り中大に一位を譲った。

### 東京学連リーグの結果 (Aブロック)

一位 中大

二位 慶大 四勝一分 (二七点)

三位 法大 二勝三敗 (一四点)

四位 教大 二勝三敗 (一三点)

五位 紅大 二勝三敗 (一〇点)

六位 農大 ○勝五敗 (一四点)

此の結果本塾を始め中大、法大、教大、明大、早大、日大、東大のA、Bブロックの上位八校は九月に行われる第一回全日本学生柔道優勝大会に東京代表として出場する事となった。

(柔道部報復刊第1号高井邦夫記より)

### 東京学生柔道優勝大会

七月二十日 於 九段警視庁体育館柔道場

先に行われた東京学生柔道リーグ戦の上位八校 (全日  
本学生柔道優勝大会東京代表八校) でトーナメントを行

い優勝をきそつた。本塾は第一戦には法政大学を4対1にて破つたが、第二戦には選手七名共全て四段で埋めた全国NO.1と称される明治大学と対戦5対0にて惜敗。一位明大、二位日大について本塾は三位にとどまつた。この二試合に於る本塾代表選手の試合振りは新聞評によれば、実に学生らしい立派なものだつたとのことである。

### 第一回戦

第二回戦		先鋒	荒木	本	塾	4	—	1	法	大
松	竹	田	木	宏	武(2)	○	竹	田	柳	谷
功(2)	博(2)	上四方	弘腰	臣(4)	剛(4)	○	熊	切	野	藤
○	大	野(4)	○	大	野(4)	毛	雅	昭	佐	佐藤
大				功(2)	功(2)	○	宮	崎	藤	柳
				大外刈	横四方	○	福	田	田	谷
				引分	引分	○	毛	雅	佐	勝
				横四方	横四方	○	臣	剛	藤	美
				優勢	優勢	○	渡	○	柳	効
				大将	大将	○	星	永	佐	効
				○	○	○	野	野	藤	効
				河辺(4)	河辺(4)	○	哲	忠	佐	効
				○	○	○	弥(2)	孝(3)	藤	効
				大	大	○	○	○	佐	効

熊切昭男(3) 内股 ○石橋(4)

福田満(3) 引分 末木(4)

宮崎剛(4) 優勢 ○門尾(4)

成毛雅臣(4) 引分 大将曾根(4)

### 夏季合宿（高校・大学）

本年春より早慶対抗柔道戦の復活について早慶柔道部間で打合せを重ね、試合日程迄話が進んで来て居たのであるが、事情に依り本年の開催は不可能となつた。このため本年は大学の夏季合宿は行わず、長戸英夫主将以下の高校生を中心とした館山合宿を行う事となり、これに大学生が各自参加する形式をとつた。館山市内浜田屋旅館を宿泊所に安房一高の道場を借りて連日の稽古を行つた。

### 山中合宿（普通部）

七月二十一日～二十七日

山中湖畔体育会山中山荘に於て大学生監督指導の下に毎朝富士を仰いで駆足をし、後カッコ一の声を聞きながら稽古をした。湖にボート、カヌー、ヨットを浮べて午後のひとときを過した。なお普通部柔道部長野口福次先生が参加指導して下さった他羽鳥六段他数名の先輩も来

られ懇ろに指導された。

（普通部会誌復刊第一号より）

### 第一回 全国高等学校柔道大会

八月一日 午前八時より 於 水戸

本塾高校柔道部は神奈川県大会で優勝、同県代表校として水戸で行われた第一回全国高等学校柔道大会に出場したが善戦の末破れた。

此の大会は全国四十八（各県一校地元三校）の代表校を十六のグループ（一グループ三校）に分けリーグ戦を行い更に選ばれた十六校のトーナメントに依り覇を競うことになつており、塾高は愛知代表蒲郡高校、山形代表鶴岡南高校とリーグ戦を行い、試合成績は次の通り一勝一敗であったが、塾高と鶴岡南高校を破つた蒲郡高校がトーナメントに進出した。

### 対蒲郡高校成績

慶應高校		蒲郡高校	
先鋒 鈴木一	男創	引分	先鋒 遠藤
久木誠	大腰	○林	
飯塚国基	大外巻	○岡	
山際正明	○岩谷	本	
跳腰			

大将 長戸 英夫  
大将 平野  
対鶴岡南高校成績 慶応高校 2 — 0 鶴岡南高校

先鋒 ○鈴木一男  
上四方 先鋒 安武  
○久木誠 小内刈  
飯塚国基  
山際正明  
引分 工藤  
大将 長戸英夫  
大将 富樫  
大将 長戸英夫  
引分 大将 富樫

この結果を顧て鈴木澄夫君が柔道部報（復刊第一号）に綴つた一文よりその一部を次に抄録する。

『神奈川に於る我々の成績は、自信と慢心とを養うに充分であった。』

八月一日、我々は「全国の水準はあんなものと違うぞ!」「神奈川の心算で居ると失敗するぞ!」と云われる先輩、大学生の注意も上の空で水戸へと出発したのである。

当日八時、選手入場、役員挨拶の後に試合は開始されたが、夫は予想（実は我々の一人よがりであるが）とは全く違うもので、白帯も黒帯と対等に戦い、巧さは無くとも其のねばり強さを以つて良く黒帯を制するのである。敗因について理由を付ければ色々あるが結局は我々

に自身の未熟に尽きるのである。ともあれ此の試合は種々の意味で我々に良い経験を与えてくれた。』

## 第一回 全日本学生柔道優勝大会

九月十四日 於 藏前国技館

晴れの第一回全日本学生柔道優勝大会が隅田河畔の藏前国技館にて開幕され、本塾選手は真新しい道衣に眼にもあざやかなベンのマークを胸につけ元気に入場す。緒戦に遠来の北信越地区代表新潟大学を一方的に退け、第二戦に過日のリーグ戦に於て引分けた中央大学と再び対戦、手に汗にぎる熱戦を展開した。

先鋒の松本は引分け、荒木はいつもの元気なく渡辺に敗れた。川本、福田は少しの所で劣勢敗になる。熊切、宮崎は元気よく、軽く白星を取り、大将成毛は得意の大外、足払と盛んに攻撃し、判定勝になるかと思われたが、無念なるかな引分けとなり、3対2にて涙をのんだ。尚、此の大会は戦後の柔道熱の上昇と初の催しであつた為か、さしもの国技館も満員、会場前にはヤミ切符売りが右往左往する始末、まずまず盛況裡に終了した。

		第一回戦											
		第二回戦											
九級 1 朝倉		大将 成宮 熊福川荒松 毛崎切田木本木本 雅昭晴宏						大将 成宮 熊福川荒松 毛崎切田木本木本 雅昭晴宏					
進級 7級 月次試合		先鋒		本		本		先鋒		本		本	
実	臣剛男満紀武功 (4)(4)(3)(3)(2)(2)	2	臣剛男満紀武功 (4)(4)(3)(3)(2)(2)	6									
引分	引崩内優優釣込引 分上股勢勢腰分	3	引大外支釣足 分落腰固	0	跳腰	十字固	内股	跳腰	腰	皆新			
昆野誠司	九月二十七日	大将 川島藏江中渡相中 口谷重崎村辺藤大	大将 樋坂近川武市皆新 古井井藤岡彻川彻 (4)(3)(2)(2)(2)	0	先鋒								

		六級											
2 1 四平柳邦生		21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 奥加加岩池渡柿川小岡清米米武武神神昆野 野藤藤上上辺本上磯島水山山田田田田野 燕順寛壯明亮堅忠三代 兒介治郎治司吉昭蔵徹明作三司											
引分		引優足引引優引大外引 分勢払分分勢分返分 優勢分勢分勢											

○早阿山奥寺加岩池渡柿川小岡清萩高米菊武朝神重  
川部下野田藤上上辺本上磯島水原井山地田田倉田宮  
鉄大燕續順寛壯明亮堅忠三代正和國大光俊  
三助兒介治郎治司吉昭蔵徹光明明雄作実三郎

点取は八対四、勝抜は大将佐々木を残して一試合共に快勝した。審判 成毛 五段

普通部対芝中学対抗試合

成毛 五段

五段

五段

十月四日

於  
綱町道場

大將  
早早山岩川奥奥頭柿柿山山飯今今  
川川下上上野野山本本川川野城城  
鉄寛堅燕立亮精  
三治吉児国司夫伝

幼年組紅白試合

秋季大会

十月十一日

於  
網町道場

引分	大内刈	引分	體落	引分	引分	引分	引分	引分	引分	引分	引分	引分	引分	引分	引分	先鋒
背負投	背負投	大外刈	合技	引分	引分	足	手	送襟絞	袈裟固	引分	引分	背負投	大外卷	引分	引分	大内刈
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平渡	渡	渡	池	寺	萩	荻	岡	清	阿	上	上	後	沢	山	山	猪
柳辺	辺	辺	上	田	原	原	原	島	水	部	原	原	宮	田	田	白
邦	明	壯	繕	太郎	正	三	代	藏	徹			茂	芳			
生	治	一郎	光									樹	博			

## 成年組紅白試合

早川

漆竹○○手○竹福山○○大○鷺○伴○松○高○小○小  
山本○本○塚○塚○内○原○崎○谷○谷○川○滝○吉○柳○野○野○野  
支○釣○込○足○先○鋒○

長一慎之助○英三輔○賢陽○  
孝男雄○三一

引分○大外返○送襷綾○合分○引大外落○引体落○嬖婆固○崩上四方○送襷綾○内股○弘腰○嬖婆固○大内刈○引分○嬖婆固○大内返○支釣込足先鋒○

○德中塚奥松五十嵐田守田岡嵐田田田田田村村村○中中大馬白  
引弘通○

大將  
金久○長飯藤宗○渡稻稻稻○野○野○村紀田田坪友星  
成木木島田間宮宮辺田田田上上上上松内村根田野  
禱慶哲直○幸紀良俊利昌  
徵誠一也行○詢男夫介二光利敬

引優勢○引優勢○引優勢○引優勢○引優勢○引優勢○  
引優勢○引優勢○引優勢○引優勢○引優勢○引優勢○  
引優勢○引優勢○引優勢○引優勢○引優勢○引優勢○  
引優勢○引優勢○引優勢○引優勢○引優勢○引優勢○  
崩上四方○支釣込足○崩上四方○支釣込足○崩上四方○  
支釣込足○崩上四方○支釣込足○崩上四方○支釣込足○

大將  
桜久頭○小伊伊○峯○峯○鍋○鍋○横○小○德○鈴○豊橋檜佐々木  
井保山山沢藤藤○岸○岸○田○田○倉○野○野○田○木○永○木○本○山  
宏雅統貞照俊輝○永○喜○正○光○真○郎  
昌義一夫彦介夫剛一也○毅勝藏治

## 有段者紅白試合

紅

○富飯鈴 沢塚木	先輩 對現部員試合	大將	○吉高	○高水河山	○吉坂	吉坂
			毛田山田川井	藤内際際	山際	坂
雅照伸文邦三		臣(4)満(4)雄(2)兒(2)	清彻	正	克彦	
			夫(2)郎(2)	明彻	彌助	
小内刈引分	先輩	大外刈崩上四方 跳腰先鋒	内股	内股	内股	
			大外落	大外落	大外落	
高熊山現 井切際部員 邦昭正員 夫男明彻		大將	宮熊遠乾	○石長飯飯田	○○飯田	○田廣
			崎切藤	井戸塚塚塚塚木	中瀬	中瀬
昭千俊清英 剛男春		大將	昭千俊清英	国澄浩久	浩久	司也助
			夫(2)隆(2)夫(2)	基(2)夫(2)	司也助	

普通部対中等部戦  
授与された。

## 審判 清水七段

13

1

先鋒

## 普通部

大將	○佐々木	○成毛
○檜橋豊平阿	○早山池岩寺川	○渡辺本
山本永柳部川下	上上田上	荻原正亮
眞光邦大鐵壯一郎	大鉄正太郎	堅吉光
治藏勝生助三	三治太郎	司治

引分  
大外巻込  
福田崎  
満剛(4)

大將	○鈴頭飯石郷岡飯阿山清岡内後山	○佐藤原城
釣込腰支釣込足	横四方	横四方
大外刈	上四方	優勢
製婆固	引分	横四方
大外落	大外落	送襟絞
製婆固	引分	巴投
大外落	大外落	
大将立	三代藏	
國	樹	道伝

紅白試合の結果進級者左の通り。

二級へ 桜井宏昌、金成禧徵

三級へ 宗宮、関俊介、久木誠、藤間、伊藤照彦、稻田詢

四級へ 佐々木真一郎、檜山治、橋本光蔵、鈴木正毅、小野喜也、田久保、星野敬、豊永勝

六級へ 岩上寛治、渡辺明治、鈴木眩祐、川上堅吉、池上壮一郎、寺田縁太郎、奥野燕児、頭山立国、岡島三代藏

七級へ 阿部俊之、柿本亮司、山川陽一

八級へ 上原、後宮、飯野精夫、沢芳将、石郷岡、今城（編入）

九級へ 飯野義章、山田雅一、猪原儀久

甲組へ 竹本、大谷、横倉、徳田、友田、坪根、手塚

乙組へ 武田邦一、高柳勝一、鷺川、五十嵐

### 警視庁予備隊対

#### 東京学生柔道連盟対抗試合

十月十八日 於 警視庁体育館

学連(本塾出場)  
(選手成績)

12 — 18 予備隊

47 50 遠藤 千春(2) 痛分  
吉川文雄(2) 引分

足立彻 飛鷹(1)

22 ○熊切昭男(3) 東軍

上四方

14 菅沼(3)(京) 大西軍

4	○熊切昭男(3)	44 田坂昭(2)	引分
32	○高井邦夫(2)	32 高井邦夫(2)	内股
12	川本晴紀(3)	12 川本晴紀(3)	引分
4	○熊切昭男(3)	4 渡辺(3)	崩上四方
		川崎(3)	

野中(2)	中島(2)	引分
中島(2)	内股	
渡辺(3)		
崩上四方		

### 第四回 全日本東西学生柔道選手権大会

十一月八日、九日 於 大阪難波球場

本塾より成毛四段(経三)、宮崎四段(政二)、熊切三段(経二)が出席、第一日の東西対抗に於ては東軍十六番目に出席の本塾宮崎四段が、西軍の雄大将吉田五段と対戦、互角に戦い吉田五段内股にて技有をとれば、宮崎すぐさま強引な右大外刈にて技有を取るという激戦の末、引分ける殊勲をあげ、東軍は大将和村五段以下半数を残しての圧倒的勝利を収めた。

第二日の選手権大会にも前記四名が出場したが、宮崎のみ全国精銳の中で準々決勝迄進出、万丈の気をはいた。

東西対抗本塾出場選手成績

準々決勝戦	○宮	第四回戦	○宮	第三回戦	○宮	福	第二回戦	成	宮	福	熊	切	19
宮	崎	崎	崎	毛	崎	田	成	宮	福	熊	切		○福
				雅			毛	崎	田	切			福
剛(4)	剛(4)	剛(4)	臣(4)	剛(4)	満(4)		臣(4)	剛(4)	満(4)	男(3)			田
小外刈	抽選勝	抽選勝	優勢	合	大外刈		不	不	不	内股			滿(4)
							戰	戰	戰				引分
○末	門	山	○河	坂	○末								背負投
木(4)明	屋(4)明	尾(4)明	辺(4)	部(3)	木(4)(明								跳腰
大	大	大	(阪工大)	大	大								優勢
													引
													分

全日本学生柔道選手権大会本塾出場選手成績

普通部校内大会（六級以下）	十一月八日
渡辺、草野、荻生、加藤の諸君優勝。	
普通部・無級	進級月次試合
17 ○ 加 藤	16 ○ 加 藤
15 ○ 別 藤	14 ○ 別 府
14 ○ 別 藤	13 ○ 別 府
13 ○ 別 藤	12 ○ 別 府
12 ○ 別 藤	11 ○ 別 府
11 ○ 別 藤	10 ○ 別 府
10 ○ 別 藤	9 ○ 別 府
9 ○ 別 藤	8 ○ 別 府
8 ○ 別 藤	7 ○ 別 府
7 ○ 別 藤	6 ○ 別 府
6 ○ 別 藤	5 ○ 別 府
5 ○ 別 藤	4 ○ 別 府
4 ○ 別 藤	3 ○ 別 府
3 ○ 別 藤	2 ○ 別 府
2 ○ 別 藤	1 ○ 別 府
1 ○ 別 藤	入江
	普通部
	無級
	進級月次試合
	渡辺、草野、荻生、加藤の諸君優勝。

普通部校内大会（六級以下）

十一月八日

渡辺、草野、荻生、加藤の諸君優勝。

将	昌	春	邦	秀
昇	仁	之	勲	昭

森	宮	半	加	米	○	○	○	○
			別	平	朝	山	永	安
永	原	田	藤	山	府	野	倉	田
剛	孝	俊						
太	典	介	昇	仁	之	隆	久	彦

十一月十五日

無級

及 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 6  
 内 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
 大組 渡池岩鈴 鈴川寺矢矢後米米神朝荻級武武岩鈴森  
 西 辺上上木木上田沢沢宮山山田倉原藤藤川木永  
 明壮寛 堅縉 賴茂 元貞 尚静哲剛  
 治郎海 吉郎 道樹 治三実夫 章生也太

釣込腰

内引引背大払優引足引引大引払  
 股分分外腰勢分払分分大外刈引  
 分腰固分腰固引腰固引

○ 樹

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
 小渡池岩山鈴川寺荻矢後上米神朝 岩加武岩鈴  
 田野辺上上下木上田原沢宮原山田倉瀬藤藤川木  
 英明壮寛恒 堅縉正賴茂 元 尚静哲  
 之治郎治男 吉郎光道樹 治三実雄章生也

## 乙

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2  
 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
 五五五五五福武明岩組 岩当馬馬松友山内内河中  
 五十嵐嵐嵐嵐嵐原田神神田田原目吉田岸山山端村田

正

誠 己

合背合 優大外 優送襷 優 払 優  
 技負技 勢返勢絞腰勢 裂婆固巴引大外引合 扯引引引  
 体落

添桜鶯小向五福武高明 森岩当高馬松友山大内河中  
 山井川野井嵐原田柳神岡田原橋目吉田岸谷山端村  
 賢 正  
 三誠 泉己

四 五 甲									
組					組				
8 ○ 小 野	7 ○ 田 久 保	6 ○ 豊 永	5 ○ 豊 永	4 ○ 檜 柳	3 ○ 平 山	2 ○ 櫻 柳	1 ○ 柳	級 平 柳	級 鍋 田
俊	邦	邦	永	一					
二	勝	治	生	剛					
優勢	大外落	小内返	優勢	支釣込足	引分	釣込腰	大外刈	大跳返	優勢
									引分
小 沢	小 野	星 野	○ 田 久 保	○ 鈴 木	佐 藤	豊 永	○ 檜 山	阿 部	紀 内 松
○ 敬	○ 二	○ 勝	○ 治	○ 助	○ 介	○ 横	○ 倉	○ 永	○ 竹 内 藤
秋	竹	斎	五十嵐	山	内	内股	卷	上四方	

講道館創立七十周年記念  
全日本年齢別柔道選手権大会

十一月二十三日午前十一時より於藏前国技館  
本塾より出場の熊切昭男三段が持前の器用さと多年の  
精進の結果、A組二十才未満の部に於て優勝杯をかちと  
つた。

A組  
(二十才未満)  
第一回戦  
○熊切(3)(東京) 体落  
藤原(2)(四国)

○熊切(東京) 判定 岡本創(東北)

○熊切(東京) 判定

岡本創(東北)

決

勝

(評) A組熊切三段(慶大)の優勝は順当だが準決勝で青森高の岡本初段が対等に渡りあつたのが印象に残つた。(辻)

(十一月二十四日付 朝日新聞スポーツ面より)

**慶應高校対早稲田高等学院対抗試合**

十一月二十日(木)午後三時より 於 日吉道場

点取試合

慶應高校 5 — 3 早稲田

先鋒

○原

○飯頭 関稻 小藤 久伊 藤 久  
塚坂山 田野 間保 木藤 保  
国克統俊 喜哲雅 照彦  
基彦一介 詢也 也義 誠彦

引 優 引 引 分 勢 分 分

○石新 伊 嶋 吉 塩 今 徳 三  
塚保 藤 山 武 見 野 間 瓶

勝抜試合

先鋒	○吉	○吉	○鈴
飯頭 関稻 小藤 久	○久	○久	長山 広瀬
塚坂山 田野 間保 木	○間	○保	戸木 木瀬
国統俊 喜哲雅	○間	○木	英一 正澄
基一介 詢也 也	○也	○下	夫男 明也
義誠	○也	○坂	夫

引 引 引 分 分 分

大將	○鈴
長山	廣瀬
戸木	木瀬
英一	正澄
夫男	明也
佐藤	重
小野	今石
塚藤	森

先鋒

○新	○伊	○石	○石	○石	○嶋	○吉	○塩	○原	○徳	○徳	○徳	○三	○今	○早	
保	藤	森	森	森	森	森	山	武	見	間	間	間	野	稻	田

○鈴木澄夫  
○鈴木廣瀬久也  
○山際正明  
大将 鈴木一男  
大将 長戸英夫  
引分  
○重田今藤  
大将 佐藤小野塚  
引分

### 第一回東京都中学校柔道大会（普通部）

十二月六日二時より於 藏前中学校講堂

戦後の柔道復興に伴い第一回東京都中学校柔道大会が中体連柔道部主催、読売新聞社後援により開催され、参加三十五校三百七十七選手を集めて団体対抗ならびに紅白試合が行われた。普通部チームはベンのマークの入った柔道衣をつけて出場、五時間にわたる熱戦の末、決勝で桜町中を3-1で破り初優勝を遂げ、佐々木主将に優勝旗が授与され、二十七年の悼尾を飾った。

### 第一回戦

相手校独協中学の不参加により不戦勝。

### 第二回戦

普通部 3 — 1 京華中学

先鋒 ○ 檜山	大将 佐々木 真一郎	第三回戦
○橋本光藏	○渡辺明治	普通部
○橋本光藏	○橋本光治	
大将 佐々木 真一郎	大将 佐々木 真一郎	
優勢	優勢	4 — 1
崩上四方負傷棄権	足払横四方	
2 — 2	2 — 2	
○	○	○
芝 中	芝 中	藏前中学

先鋒 ○ 檜山	大将 佐々木 真一郎	普通部
○橋本光治	○橋本光治	
大将 佐々木 真一郎	大将 佐々木 真一郎	
優勢	優勢	4 — 1
崩上四方負傷棄権	足払横四方	
2 — 2	2 — 2	
○	○	○
輪笠	輪笠	藏前中学

### 決勝戦

#### 代表戦

○檜山 大将 佐々木 真一郎

治

足払

輪笠

普通部 桜町中 3—1

先鋒 ○ 檜山	治	横四方	清水
○ 渡辺明治		大外刈	森川
橋本光蔵		引分	矢野
○ 豊永勝		一本背負	木
大将 佐々木真一郎		大内返	大将 ○ 棒

## 紅白試合

山下(三年)	個人賞
岩上寛治	二勝
川上堅吉	一勝
奥野燕児	二勝
柿本亮司	二勝

## 普通部柔道部の現状

普通部会誌復刊第1号(1953年刊より)

普通部の柔道部は立派な伝統をもつてゐるが、戦争後一時中絶し、復活したのは昨年であった。戦後柔道はスポーツとして盛んになつたが、普通部の中にも柔道を熱心に習う人がふえて來た。現在、三田綱町の柔道場にて師範、先輩方の指導を受けつつ、中等部生と共に稽古に励んでゐる。月次試合の参加者も最近多くなり、上級生の中には既に高校級の実力を備えている人が出て來たの

は撓まざる練習の結果であろう。

部員の数や指導の関係で、三田綱町の道場へ通つてゐる現況であるが、部員は既に五十名を越え、普通部専用の道場の必要に迫られている。この夢は近き将来に実現したきものである。

## 進級月次試合

十二月十三日

## 九級(六級)

1 北島	伊藤毅勇
2 ○ 伊藤毅勇退	伊藤毅勇
3 ○ 伊藤毅勇	伊藤毅勇
4 ○ 伊藤毅勇	伊藤毅勇

13 鈴木	12 鈴木	11 永木	10 永木	9 ○	8 朝木	7 米山	6 鈴木	5 山田
啓之	昌久	田中	田中	倉山	山田	田邦	吉治	吉隆
引分	大内刈	大外刈	大外刈	合	優	勢	大外刈	引分
契婆固	入江	北島	永木	朝木	米山	倉木	木哲	鈴木
入江	木哲	賢之	賢之	入江	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木

○ 鈴木	○ 永木	○ 朝木	○ 鈴木
小野塚	中村	北島	木哲
賢公	賢公	昌興	鈴木
澄一	澄一	久治	邦
平之	平之	夫	吉

36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14  
 ○ ○ 川川池山矢奥清小萩伊後別森森大萩神朝武谷永村小野塚  
 上上上下沢野水磯原藤宮府永永熊野田倉藤元岡松  
 堅壯恒頼燕英忠正茂剛國貞光高道秀賢  
 吉郎男道児範昭光毅樹仁太之夫三実幸治昭澄

大引引一裂優引裂合引大 大引引合引足引大引  
 外刈外刈一本背負一本背負 分分返分  
 刈刈分分固勢分固技分腰 分分

岩寺川池山矢奥清小萩加後別半森大萩神朝武谷永村  
 上田上上下沢野水磯原藤宮府田永熊野田倉藏元岡松  
 寛縉堅壯恒頼燕英忠正茂剛國貞光高道秀  
 治太吉郎男道児範昭光昇樹仁太之夫三実幸治昭

## 乙

## 丙

8 7 6 5 4 3 2 1	組	9 8 7 6 5 4 3 2 1	組	40 39 38 37
○ 武 武 武 桜 馬 馬 水		水 高 河 松 島 中 根 大 福		萩 野 青 茶 木
山 田 田 井 目 目 谷		谷 橋 端 吉 田 村 本 西 田		原 沢 木 原

内引内突引巴合引 合优引巴引优 扑裂合 引引引 扑卷达  
 股分股絞分投技分 技势分投分势腰固技 分分分 分达

福秋奥添武桜友馬 森水高河松島中根大 福萩野青  
 原山田山田井田目 岡谷橋端吉田村本西 田原沢木

五級													甲							
4	3	2	1	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	11	10	9	
早	早	小	小	級	横	横	野	野	峰	友	竹	竹	竹	竹	木	木	組	小	磯	秋
川	川	野	野	倉	倉	上	上	上	岸	田	内	内	内	内	下	下	倉	沼	山	
鉄	英	永	幸	弘	昌															
三	之	一	男	夫	利															
引	引	引	引	大	合	体	足	合	引	引	大	外	内	優	崩	返	合	合	引	
分	分	分	分	外	技	落	払	技	分	分	外	刈	股	勢	製	婆	技	技	分	
佐	阿	阿	早	○	○	村	明	野	峰	友	峰	鍋	丸	竹	徳	○	○	小	磯	
藤	部	部	川	本	内	倉	松	神	上	岸	岸	田	岸	田	山	内	田	井	倉	沼
隆	大	鉄	良	永	永	幸	弘	昌	輝											
三	助	三	介	一	男	夫	利	夫	剛											

第一回 神奈川県高等学校学年別柔道大会																		
21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5		
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
桜	金	近	伊	宗	稻	小	星	佐	檜	田	鈴	豊	福	渡	佐			
井	成	田	藤	宮	田	野	野	々	久	保	木	永	田	辺	藤			
宏	禧	富	照	直	喜	真	俊	一	正	靖	明	隆						
昌	微	男	彦	行	詢	也	敬	郎	治	夫	毅	勝	与	治	三			
優	引	引	引	引	引	引	引	引	引	引	引	引	引	引	引	引	引	引
勢	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
上	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方	方
内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内
西方	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
近	桜	金	近	伊	宗	稻	小	星	佐	檜	田	鈴	豊	福	渡	佐		
田	井	成	田	藤	宮	田	野	野	々	久	保	木	永	田	辺	藤		
富	宏	禧	富	照	直	喜	真	俊	一	正	光	正	靖	明				
男	昌	微	男	彦	行	詢	也	敬	郎	治	夫	藏	毅	勝	与	治		

本塾高校は夏の全国大会での苦い経験を生かして、十  
二月に開催された第一回神奈川県学年別柔道大会には、全  
学年わたって優勝を独占して、高校監督熊切三段指

導のもと確固たる地位を築き上げるに至った。なお本大會の試合記録は保存されていない。

本年度は以上の他に、記録は残存していないが、恒例の卒業生送別大会が春休み前に実施されている。また、日時、場所が明らかにならないが次の慶應高校対立教高校対抗試合が行われている。

### 慶應高校対立教高校対抗試合

#### 点取り試合

		慶應高校									
		先鋒	○久	稻	峯	小	木	保	雅	義	
引	引	合	背	負	技	引	大	外	返	落	引
分	分	分	分	分	分	分	足	足	足	足	合
高	高	日	和	高	鶴	島	藤	下	立	7	—
木	木	比	生	田	木	川	村	淵	川	—	3
教											
木(榮)											

#### 勝抜試合

○山	際	正	明
長	戸	国	基
鈴	木	一	男
英	夫		
大	將		

#### 慶應高校

先鋒○小野喜也

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
久	久	久	久	久	木	木	木	小	山	小	小
木	木	木	木	木	保	保	保	下	下	下	下
優	内	内	内	内	優	優	體	體	裸	絞	引
勢	股	股	股	股	勢	勢	落	落	分	分	分

#### 先鋒

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地	細	鶴	藤	芝	芝	高	下	高	日	山	富
頭	淵	川	川	田	村	村	垣	川	比	竹	宮
○	○	○	○	○	○	○	○	○	生	中	立
地	岸	木	木	木	木	木	木	木	内	野	

#### 教

大將

長 鈴 山 飯 広 吉 鈴 頭 関 伊 稲 稲 稲 田 星 久 久  
戸 木 際 塚 瀬 坂 木 山 藤 田 田 田 保 野 木 木  
英 一 正 国 久 克 澄 統 俊 照 俊  
夫 男 明 基 也 彦 夫 一 介 彦 詢 夫 敷

不 不 不 不 不 不 不 不 引 体 大 大 優 引 引 優  
戦 戦 戦 戦 戦 戦 戦 分 落 返 外 外 落 勢 分 分 勢

大將

村 村 村 鈴 高 高 根 和 根  
松 松 松 木 木 木 岸 田 本